メガネボランティアに参加して

盛岡市・小野寺倫代さん

大槌町で行われた第2回のメガネ支援に市民ボランティアとして参加しました。会場となった大槌町中央公民館は高台にあるので、町中が見渡せます。被災地に行ったのは初めてでしたので、目の前に広がる浜まで瓦礫が続く光景はとても衝撃的なものでした。

10時ころから活動が始まりました。私の仕事は、老眼鏡を渡す前のチェック係。メガネをかけて新聞を読んでもらい、度数が合っているかを確認しました。

ある高齢の男性にメガネを手渡した時のことです。その方は深々と頭を下げてお礼を述べられた後、「全部流されてしまってね…。」と涙を見せたのです。頑固そうにも見えたその方の涙に、切なさが一気につのり、もらい泣きしてしまいました。

本当にひどい災害です。あの被災者の方々の様子を見ると、何をしていいのか、何ができるのか、一人で行ったら立ち尽くしてしまうような状況だと思いました。

そんな中、『メガネの松田』のみなさんは、「前回に比べて重機も入り、道もできている。だいぶ片付いてきた。」と言っていました。その言葉に、震災直後の凄まじさが想像できましたし、かなり早い段階で既にメガネ支援の活動を開始していた事を知り、感動しました。

以前、ボランティアの講習会で「普段できないことは、いざという時にもできない。」という言葉を知りました。ボランティアとは、自分たちが普段何をやってきているのかを問われることでもあるのだということです。『メガネの松田』のみなさんは、この被災地ボランティアを何の気負いも見せず、当然のように淡々とこなしていました。ネパールでの活動など、今までもやってきたからこそ今できるのだと、心を打たれました。

メガネボランティアに参加して本当に良かったと思います。「瓦礫は気力も体力も失わせる。」震災以来、仕事で何度か被災地に足を運んでいる夫の言葉がよく理解できるようにもなりました。『メガネの松田』のみなさんを始め、被災地支援に尽力している多くのボランティアや地元の方々の姿が見られたことで、震災以来重苦しかった気持ちも、少し前向きになれたように思います。これからも機会があれば被災地支援の活動をしたいと思っています。

大船渡市・陸前高田市・山田町へ

東京にいる親しいメガネ店のスタッフが車を飛ばしてやって来てくれました。今までは3人程度の体制で行っていたメガネ支援ですが、東京チームとの合同により、戦力が一気に倍になったのです。また、市民ボランティアの申し出もあり、沿岸に同行していただくことができたのは、本当に心強い事でした。

みなさんに喜んでいただけたメガネケース。

そして、第4回目からは視力測定器を持ち込んで、より正確な検査を行うことができるようになりました。「これで新聞が読める！」「運転ができます！ありがとう。」そんな言葉にとても励まされました。

大船渡・陸前高田で400人、山田町では350人の方々に老眼鏡や緊急用の近視メガネを提供させていただきました。しかし、強い乱視の方の調整は、現地では不可能です。特にお子さんの視力がうまく合わせられない時には、プロとしてとても悔しい思いがしました。

4月13日、山田町の三か所の避難所を訪問しました。この頃には、食料や衣類、毛布などの基本的な物資は、地域の災害対策本部やさまざまな団体の支援によって、ほぼ行き渡っているように見受けられました。しかし、メガネやコンタクトのケア用品といった、少し特殊な物資については手が回らない様子です。避難所の医療関係の方に聞くと、やはり歯磨き粉や入れ歯洗浄剤などが足らずに困っているとのこと。こういった細やかな需要に気づくのは、やはりそれを仕事にしている、医療関係者か私たちのような人間なのです。

自らも被災しながら救助活動などを行っている消防団の方にもメガネを。

また、5月になってから、盛岡市を拠点に被災地支援活動を行っているSAVE IWATEという市民団体から、各地の在宅避難者の方々から老眼鏡の要望があるという情報をいただきました。そこで、皆さまからお預かりしている老眼鏡を、SAVE IWATEの支援物資と同

こちらは、ペットの簡易避難所。大船渡にて。

二次避難所でのメガネ支援開始！

山田町で活動した時に、家を失った方々が内陸各地の温泉や観光ホテルに多数避難している事を知りました。そこでは住む所と食事は確保されているものの、日用品が不足しているとの噂も聞きました。そこで私たちは、そういった二次避難所と呼ばれる場所でメガネ支援をする準備を始めました。

4月19日、雫石町の温泉で山田町から避難している約200人の方々に、4月27日には花巻市と盛岡市の温泉で大槌町、釜石市、陸前高田市などからの330人に、5月10日には安比のホテルで大槌町、宮古市、山田町などからの約135人の方に、それぞれメガネの提供を行いました。また、被災地に戻ってからの復興作業で使っていただける防塵メガネの配布も行いました。

復興を感じさせる野田村でのメガネ支援！

被害の大きかった沿岸南部と二次避難所での支援活動を終えた頃、沿岸北部の野田村で仮設住宅の入居が始まり、日用品を集めているという情報をいただきました。

野田村は、以前この「メガネの松田新聞」の取材でも訪れたところ。ぜひ支援させて欲しいことを地元のNPOを通じてお願いしたところ、仮設住宅の立ち並ぶ中学校の校庭にテントを用意していただくことができ、野田村でのメガネ支援が実現しました。

5月26日、野田村の被災地では既に瓦礫撤去も終了し、北三陸の冷たい風が吹く中、土台だけになった建物の跡が痛々しく広がっていました。神社の鳥居には2メートル以上の高いところに津波が来た痕跡が残り、あまり報道されていない北三陸の津波被害の凄まじさを物語っています。しかし村の人々の表情は明るく、商店街も各地から訪れたボランティアの協力を得て、着々と復興しているように感じました。

野田村では、仮設住宅に入居した方、周辺の避難所や在宅で避難をしている方など、約60人の方々のメガネ支援をさせていただきました。

『メガネの松田』の被災地メガネ支援は、以上の活動でひとまず終了としました。被災各地のメガネ店が復興、再開し始めたことがそのおもな理由です。

最後に、メガネ支援の活動の中でうれしかった事を一つ紹介しましょう。

それは、どこの避難所に行っても松田社長が人気者だった事。社長の姿を見つけた方々に「あ！メガネの松田の社長さんだ！」「今日は蝶ネクタイしてないの？」などと声を掛けられました。また、ネパールでの活動をご存知の方も多く、各地で話が弾みました。みなさまのおかげで続けて来られたメガネボランティアが、地元岩手県で役立ったことは、本当にうれしい事でした。

被災地ではまだまだ多くの支援を必要としています。当店もまた新たな支援の方法を考えてみたいと思っています。メガネをご提供くださった皆さま、全国のメガネ店様、活動にご協力いただいた岩手県眼科医会様に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

柱の陰にも長蛇の列が。

2011年夏 プレゼントクイズ

さあ次の漢字、見た事がある文字が多いと思いますが、なんと読むでしょう。読み方を書いて送ってください。

1. 椎茸
2. 牛蒡
3. 茄子
4. 大蒜
5. 山葵
6. 玉蜀黍
7. 南瓜

官製はがきにクイズの答え・ご住所・お名前・年齢をお書きのうえ、下記「夏プレゼント係」あてにお送りください。

抽選の上、本紙でご紹介した野田村「まるきん大沢菓子店」の心さんがつくった、希望エッセンス入り美味しいお菓子の詰め合わせ（まるどら・のだ塩ちょこまん・撫でベコなど）を5名様にプレゼントします。（まるきんから直送されます。）当選者は次号で発表します。当社または当紙に対するご意見、ご感想も合わせてお寄せください。

●応募のあて先／020-0022　盛岡市大通1-7-1
メガネの松田「夏プレゼント係」
●応募締切／平成23年7月末日
●前号の当選者は、SI様（盛岡市）・MS様（盛岡市）・NM様（盛岡市）・IH様（紫波町）・NK様（矢巾町）です。
多数のご応募に感謝いたします。

編集部・専務の松田より

●大きいサイズでお届けした「メガネの松田新聞」いかがでしたか。復興へ向けての『メガネの松田』のメッセージを感じていただけるとありがたいです。本来であればもっと支援の様子の写真を掲載すべき所ですが、活動は大変多忙で記録を取る余裕がありませんでした。そして…被災者のみなさんにカメラを向ける勇気がありませんでした。

●被災地でのメガネボランティアは、往復200キロ近い移動と、休む暇のない活動で、帰って来ると体は鉛のようでした。でも、避難所のある男性に言われた「ありがとう！これで明日からがんばれるよ。」という言葉を思い出すと、心に元気が湧いてきました。合い言葉は「いっしょにがんばろう！」です。